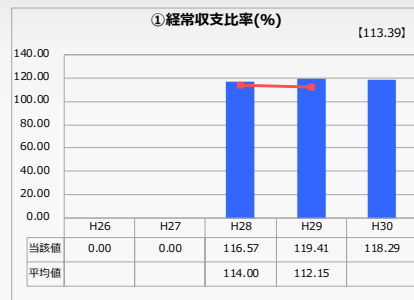


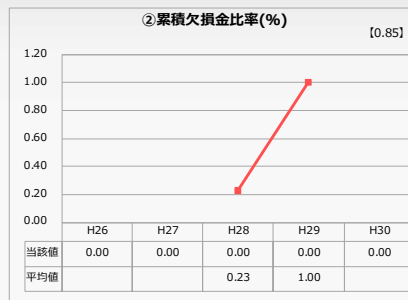
統合後の経営比較分析表

1. 経営の健全性・効率性



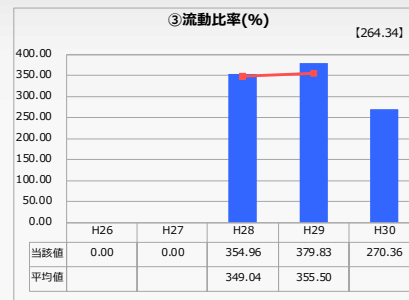
「経常損益」

↑ 事業の収益性を示すものであり、100%を上回っていれば良好な経営状態である。



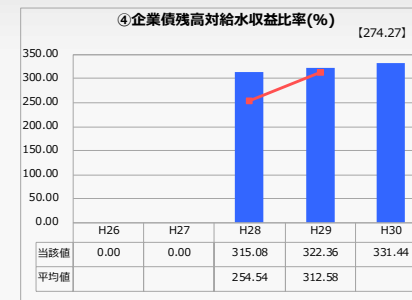
「累積欠損」

↓ 事業の健全性を示すものであり、累積欠損が発生していると企業は健全なものとはいえないため、0%であることが望ましい。



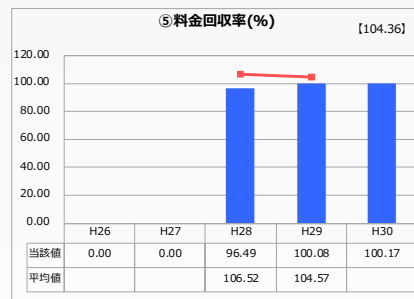
「支払能力」

↑ 事業の財務的安全性を示すものであり、100%以上であることが必要である。100%下回っていると不良債務が発生している可能性がある。



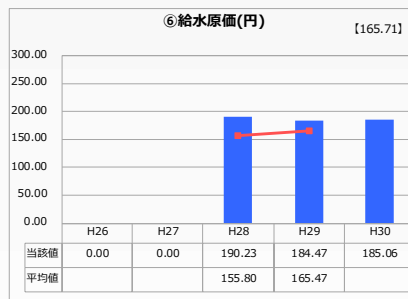
「債務残高」

↓ 企業債残高の規模を示すものであり、値が低いほど望ましい。200%の場合、給水収益の2年分の企業債残高が残っていることを意味する。



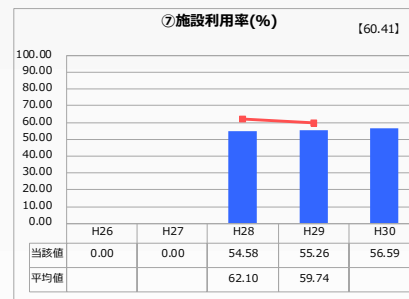
「料金水準の適切性」

↑ 経営状況の収益性を示すものであり、100%以上が望ましい。100%を下回っていると給水にかかる費用が料金収入以外で賄われている。



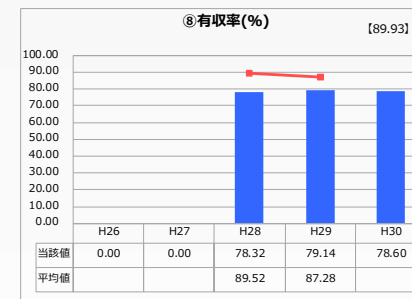
「費用の効率性」

↓ 水量1m3あたりどれだけ費用がかかっているかを示すものであり、値が低いほど生産コストが低いことを意味する。



「施設の効率性」

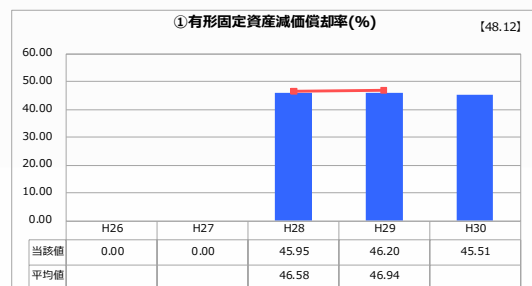
↑ 水道施設の効率性を示すものであり、経営効率化の観点では高い方がいいが、施設更新や事故に対応できる一定の余裕は必要である。



「供給した配水量の効率性」

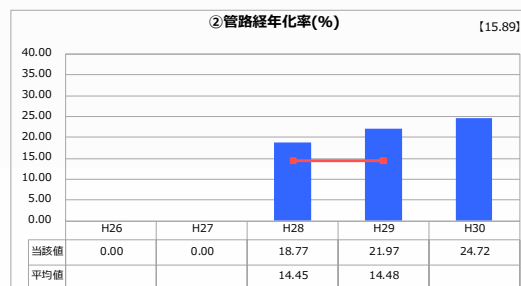
↑ 配水量に対して料金で回収される水量の割合であり、値が高いほど収益性が高く、漏水が少ないことを意味する。

2. 老朽化の状況



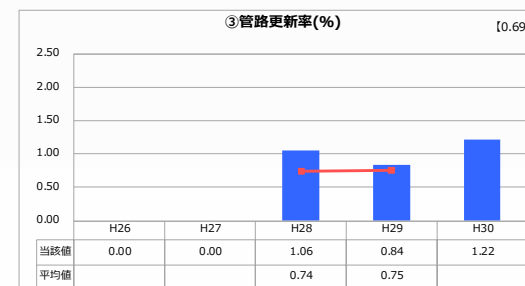
「施設全体の減価償却の状況」

↓ 償却資産における減価償却済みの部分の割合を示すものであり、値が高いほど資産の経年化が進んでいることを意味する。



「管路の経年化の状況」

↓ 管路総延長に対して法定耐用年数(40年)を超過している管路延長の割合を示すものであり、値が高いほど管路の経年化が進んでいることを意味する。



「管路の更新投資の実施状況」

↑ 管路総延長に対して更新された管路延長の割合を示すものであり、値が高いほど更新が進んでおり、更新率1%の場合、管路の更新周期が100年周期であることを意味する。